
50周年を迎えて



会長挨拶

公益財団法人 兵庫県予防医学協会

会長 深谷 隆

公益財団法人兵庫県予防医学協会は2021（令和3）年4月に創立50周年の節目を迎えました。創立以来、予防医学事業の展開を通して国民の健康を保持増進し、広く社会に貢献できるよう努めてまいりました。これまで事業を継続発展することができたのは関係各位のご支援の賜物であり、心よりお礼申し上げます。

当協会は1971（昭和46）年4月に創立されました。当時は寄生虫がまだ小児の健康上の大きな課題であり、神戸市衛生局（現在の健康局）から神戸市医師会に学校での寄生虫卵検査の精度を上げたいとの要望が寄せられ、両者の協議が始まりました。検討を進める中で、「医師会とは別の役割で保健行政を支え、地域保健の充実に一端を担う団体が必要」という結論に至り、兵庫予防医学協会が創立されました。同年6月には兵庫県予防医学協会と名称を変更し、9月には兵庫県衛生部（現在の保健医療部）のご推薦により財団法人予防医学事業中央会と財団法人日本寄生虫予防会の兵庫県支部として認定されました。

業務面では、同年4月に寄生虫卵検査、9月からは灘神戸生活協同組合（現在の生活協同組合コープこうべ）組合員健康検査を開始し、以後着実に事業を拡大してまいりました。1973年6月には、兵庫県と神戸市、灘神戸生活協同組合、医師会などのご理解、ご協力により、財団法人兵庫県

予防医学協会を設立し再出発しました。また、この年に神戸市の外郭団体になり、1974年から住民健診（市民健診）を開始しました。その後も健診（検診）や検査事業を拡大し、1998（平成10）年4月から神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ開業に伴う受託事業を開始し、2010年4月から健康ライフプラザの指定管理制度を受託しました。2011年には神戸市の外郭団体から離れて関係団体となりましたが、神戸市との設立時の基本的な位置づけから、神戸市と緊密な連携をその後も維持しています。2013年には公益財団法人に移行しました。また2013年には灘区に健診センターが竣工し、健康ライフプラザと御影の保健環境センターと共に3カ所で事業を行っています。2018年には健康ライフプラザの指定管理制度が終了し健康ライフプラザ健診センターとして健診事業を行っています。

事業内容は多岐にわたっていますが、中心になるのは疾病予防のための健康診断および検査事業であり、地域、産業、学校の各保健分野における健診、がん検診、産業保健分野でのストレスチェック、人間ドック等を行っています。また、健診結果を有効に活用するために特定保健指導などの保健指導を実施しています。検査事業としては子宮頸がん検診等の細胞診、便潜血検査（大腸がん検診）、学校検尿などの検体検査の他に、作

業環境測定、簡易専用水道検査、食品検査など幅広い検査に対応しています。

その他にも、機関誌の発行や産業医派遣、講師派遣などの疾病予防に関する知識の普及啓発事業、健診に関連する論文発表や学会発表などの予防医学に関する調査研究事業、疾病の予防教室など健康支援のための健康推進事業や健康教育事業を行っています。

予防医学には、病気になる前に防ぐ一次予防、病気になった時に早期発見によって重症化を防ぐ二次予防、病気の治療後に社会復帰を促すことや疾病の再発を防ぐ三次予防があり、当協会では主に一次予防と二次予防を担っています。ターゲットとなる疾患はその時代の疾病頻度の影響を受けますが、2020年度の死因別頻度の順位は悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患、肺炎、誤嚥性肺炎、不慮の事故の順になっています。最近の傾向として、悪性新生物と心疾患は依然として頻度が高いこと、また、高齢化社会を反映して老衰や誤嚥性肺炎が多くなってきています。予防医学の主要な対象にはがんや生活習慣病の予防、早期発見があげられています。今後はフレイルや認知症などの高齢者の問題に対する対応が重要になっていくものと思われます。

最近の健診事業は新型コロナウイルス感染症によって大きな影響をうけており、受診控えが懸念されています。感染拡大当初の2020年3月から5月の3カ月間、市民健診が中断されました。その後も感染拡大を繰り返す中で、外出控え、リモートワーク（通勤の運動量減少）、屋外での運動控えなど様々な生活の変化により、生活習慣病の増加が認められています。がん検診でも受診控えが大きな問題となっています。多くのがんで早期に発見できれば5年生存率が90%を超えるなど、早期発見が重要であることは広く知られています。しかし、がん検診などの受診控えによって、がんの早期発見が減少し、がん手術例での進行がんの

増加が報告されています。

新型コロナウイルス感染症に対して当協会では各種ガイドラインに基づいた感染予防策を徹底し、安全に健診を受けていただくことができるように努めています。3密を避けること、基本的感染予防策（例えばマスク着用や手指などの消毒の確実な実施など）を徹底し、これまでに当協会の事業での新型コロナウイルス感染症のクラスター発生を見ることはありませんでした。今後も新型コロナウイルス感染症の影響は続くと思われませんが、新型コロナウイルス感染症と共存しながら、さらに安全な健診を模索し、受診者の皆様に安心して受診していただくことができるように努力してまいります。受診者の皆様にはこれからも積極的に健診を受けていただきます様をお願いいたします。

今後の健診事業を継続発展していく上でいくつかの課題があります。

まず受診者から信頼される健診精度の維持向上があげられます。検査そのものについては職員の診断技術向上に向けた日々の努力は勿論のこと、外部精度管理などを積極的に活用して高い検査精度を継続しています。更なる精度向上をめざして努力してまいります。検査方法については現行より精度が高く、低侵襲な検査方法や全く新しい方法が開発されれば、積極的に採用を検討することも重要であると考えています。

次に受診率のさらなる向上が求められています。生活習慣病を主なターゲットとする特定健診とその結果に基づく特定保健指導については、兵庫県や神戸市は全国と比較すると受診率が低く、受診率向上が課題となっています。また、がん検診でも、早期発見に向けて受診率のさらなる向上が必要とされています。当協会では以前から神戸市のご指導をいただきながら各種対策を行っています。まず、効果が高いとされている受診勧奨（健診受診について対象者に直接お知らせする）があります。また、特定健診とがん検診を同一日

に受けることができる“セット健診”を実施して利便性の向上に努めるほか、健診へのアクセスを改善するために一部の健診でインターネットを使った予約を行っています。インターネットを用いた申し込みは今後も拡大していくものと期待しています。

健診結果の活用も重要な課題です。結果説明や保健指導で結果の問題点を明らかにし、対策を立て、実行することで健診結果が活かされます。また、医療が必要な結果であれば、医療機関受診をお勧めし、早期の治療に結びつけることも大切です。このような効果を通じて健診の重要性を認識していただければ、健診受診の継続や拡大につながると思われまます。

最後になりましたが、今後も市民一人ひとりが健康寿命を延ばして、いつまでも元気でいられるように予防医学の実践によって貢献していきたいと思っておりますので、関係各位におかれましては、これからもご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。創立50周年記念誌発刊のご挨拶といたします。